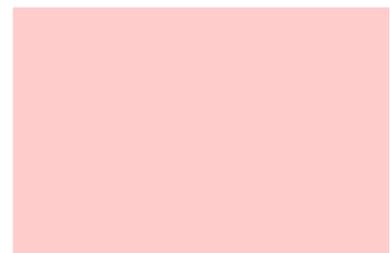
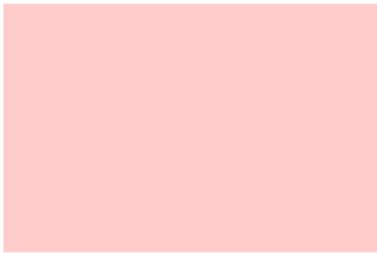


戸山地域・湯来地域活性化プラン

— 「sugusocó 戸山・湯来」の実現に向けて—



令和4年3月

戸山地域・湯来地域活性化推進協議会

目 次

| | | |
|----------|----------------------------|----|
| 1 | 現況 | 1 |
| 2 | 活性化プランのねらい | 3 |
| 3 | エリアイメージ | 5 |
| 4 | 活性化の基本方針 | 6 |
| 5 | 取組内容 | 7 |
| 6 | 取組姿勢 | 9 |
| 7 | 将来的に目指す姿 | 9 |
| | (参考) 戸山地域・湯来地域活性化推進協議会構成員等 | 10 |
| | (参考) 活性化に向けた協議 | 11 |

1 現況

○ 戸山地域の概要

戸山地域は、明治22年、阿戸村と吉山村が合併して戸山村となり、以後、沼田町を経て昭和46年に広島市と合併した。広島市の中心部から車で約30分、安佐南区の西端に位置し、面積は32.70km²、区内唯一の中山間地域である。

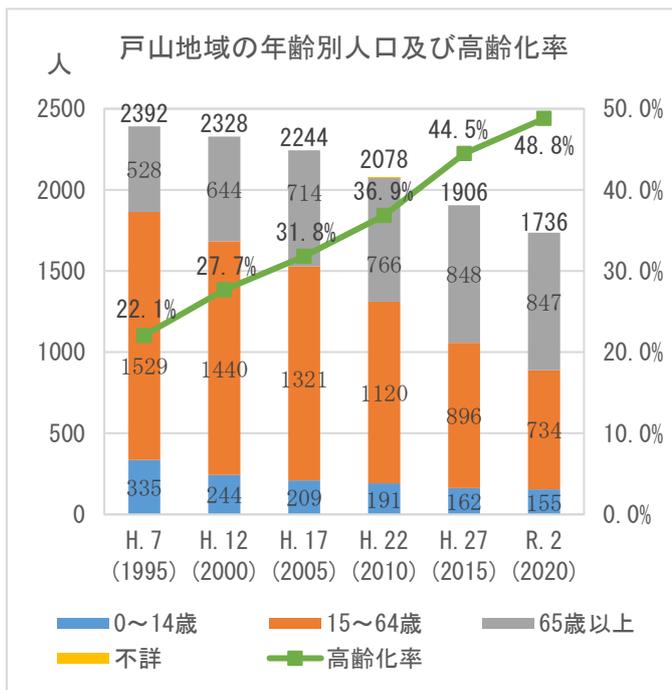


戸山地域の様子

戸山地域は、吉山川に沿って展開した集落で、大利蔵山を始め、四方を山に囲まれ、豊かな自然の中に昔の面影を伝える文化財を残す地域である。特に、江戸時代からの伝統を誇る「阿刀神楽」は、広島県無形民俗文化財に指定されており、地域の若者が技術を受け継ぎながら、小学校で神楽の授業を行うなど、伝承のための活動が行われている。他にも、広島市指定の天然記念物である阿刀明神社の「社叢」（神社の林）、中ノ森八幡神社の「アラカシ」があり、自然と文化が清閑な雰囲気をつくりだしている。また、地域の農家と連携して、農産物や加工品を販売しながら、飲食を提供する店舗や、自然豊かで落ち着いた雰囲気を求めて、こだわりをもった飲食店が出店している。

このような魅力がある一方で、人口は1,736人（令和2年国勢調査）で、平成7年の調査と比較すると27.4%減少しており、高齢化率は48.8%となっている。移住希望者は多いものの、地域内の空き家は、所有者が不明であったり、手放すことへの抵抗感等があったりすることから、移住希望者に空き家を紹介することができないという難しさがある。

こうした状況に対し、地元住民が中心になり、空き家の掘り起こしや移住相談、地域の魅力発信に取り組み始めている。



（「国勢調査」より作成）

○ 湯来地域の概要

湯来地域は、昭和31年、水内村、上水内村、砂谷村が合併して湯来町となり、平成17年に広島市に合併した。広島市の中心部から車で約50分、西と南を廿日市市、北を安芸太田町に接しており、面積は162.87km²である。

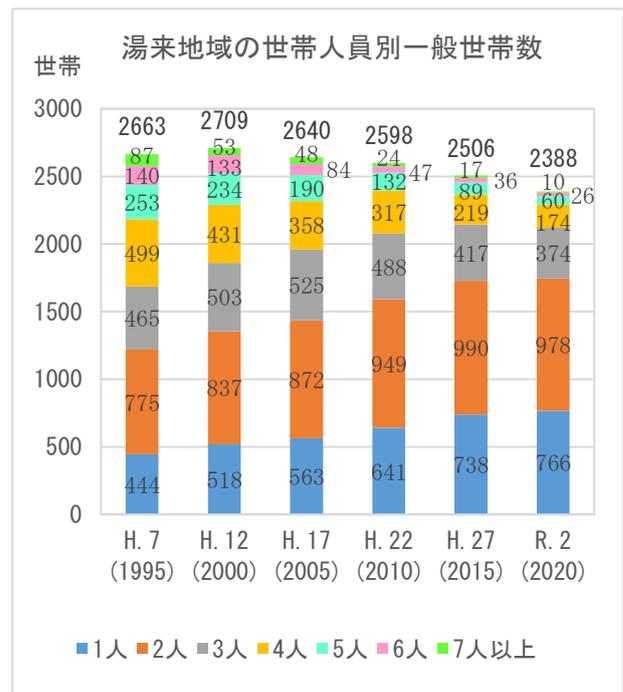
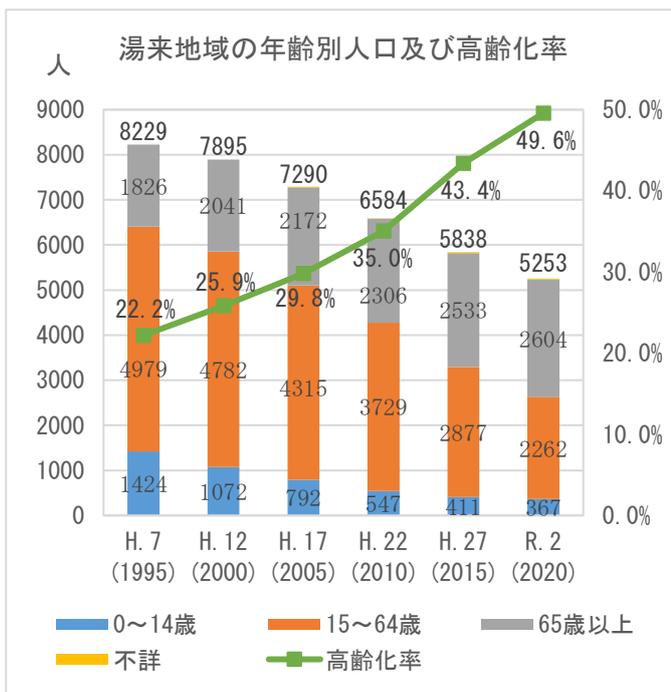


湯来地域の様子

湯来地域は、広島市を流れる太田川の上流域と八幡川の源流域にあたり、川沿いの開けた土地には農地が広がっているものの、町域の約9割を山林が占めている。自然環境を生かし、酪農や林業が営まれ、こんにゃく、牛乳、鮎、ジビエなど湯来独自の食文化を形成している。また、湯来地域には、広島市内で唯一の国民保養温泉地である湯来温泉・湯の山温泉がある。湯来温泉は、「広島のお座敷」と呼ばれ、多くの宿泊施設が軒を連ね、湯の山温泉は、江戸時代に広島藩主の湯治場として創建された湯ノ山明神旧湯治場が現存し、国の重要有形民俗文化財に指定されており、共に広島市民の保養地として栄えた。

このような魅力がある一方で、人口は5,253人（令和2年国勢調査）で、平成7年の調査と比較すると36.2%減少しており、高齢化率は49.6%となっている。耕作放棄地が目立つほか、林業に携わる人も少なくなっており、自然環境の荒廃が有害鳥獣による被害を発生させる一因ともなっている。温泉街もかつての盛り上がりはなく、宿泊施設は各温泉街に民間の旅館が1軒ずつ残るほか、湯来温泉に国民宿舎湯来ロッジが残るのみである。

こうした状況に対し、地域の魅力を再確認し、自然や食を生かした体験型の取組や、温泉を活用した観光客誘致の取組が始まっている。



(「国勢調査」より作成)

2 活性化プランのねらい

中山間地域である戸山地域・湯来地域は、他の中山間地域と同様に人口減少・少子高齢化が急速に進んでいるものの、自然や温泉、歴史、文化、こだわりの食材や飲食店など豊富な地域資源を有するとともに、地元住民でまちづくりについての勉強会を設けるなど、地域の活性化のために行動している。

また、戸山地域は広島市中心部から車で30分程度、湯来地域は50分程度の距離にあり、主要地方道広島湯来線の改良工事が完了すれば、都市部からのアクセス及び両地域間のアクセスの更なる向上が見込まれる。

自然

田畑を潤し、動植物を育む川や山林



歴史文化

歴史ある文化財と昔ながらの暮らし



食

地域が育んだ特産品とこだわりの店



スポーツ

地域に点在する運動施設



体験

ここでしか味わえない貴重な経験



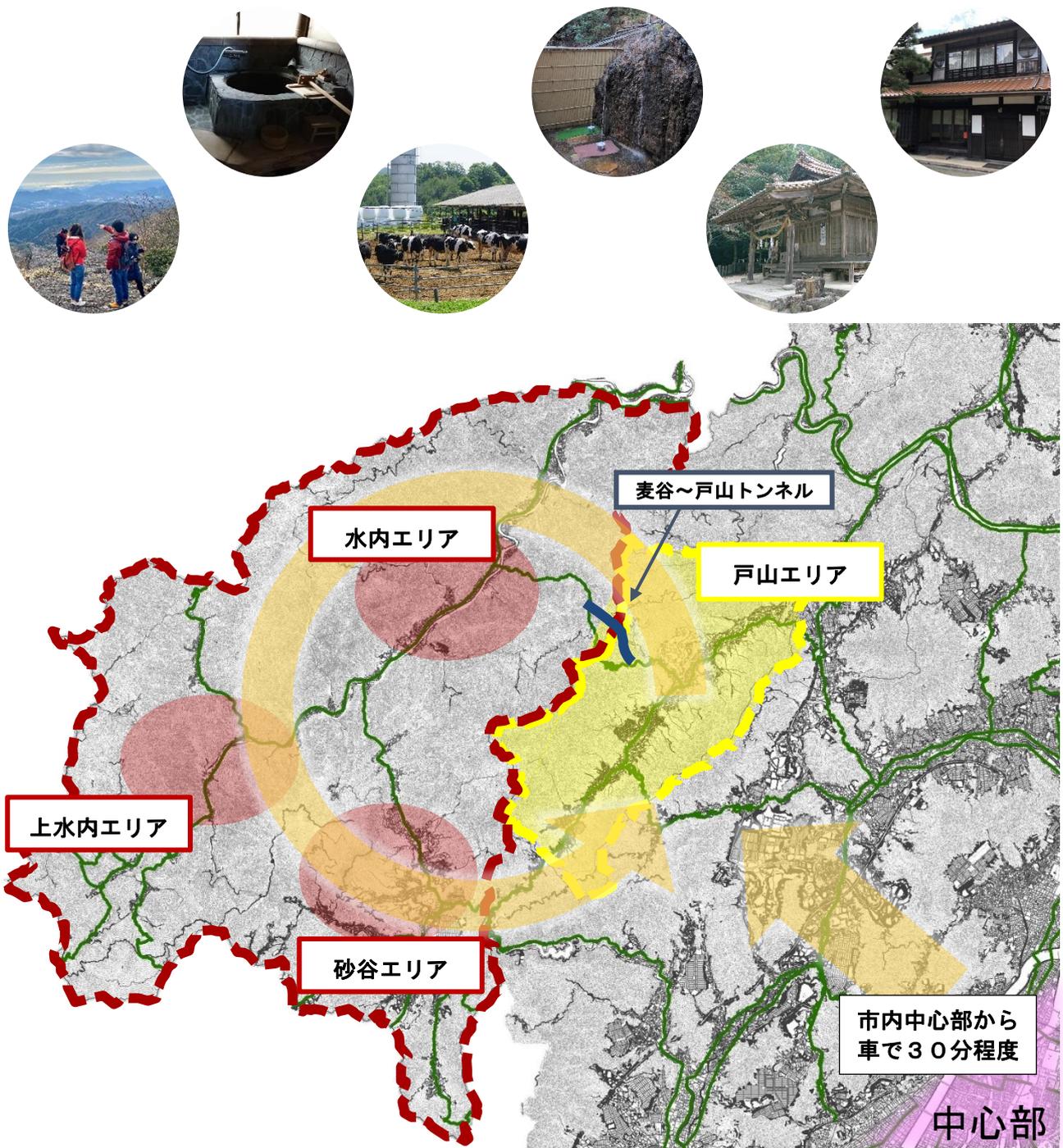
人

地域を愛し、誇りをもつ人



このような特性を持つ両地域に人を呼び込み、活性化を図っていくためには、両地域を一体として捉えたエリアイメージを都市住民に鮮明に打ち出していくことが効果的である。

このため、両地域のエリアイメージや活性化の方向性について、民間事業者や行政と合意形成を図り、両地域の特長を生かした「戸山地域・湯来地域活性化プラン」(以下「活性化プラン」という。)を策定し、この活性化プランに基づいた取組を地域、民間事業者、行政が一体となって進めていくことにより、エリア全体の魅力を向上させ、都市住民を呼び込んで地元との関係構築を促進し、交流の拡大を図っていく。



sugusocó 戸山・湯来

sugusocó（すぐそこ）は、次のことを表している。

- ① すぐそこにあり、気軽に楽しめる場所であること
- ② 多様な魅力により、自分なりの過ごし方がすぐに実現できること
- ③ có は、戸山地域と湯来地域、両地域と都市住民が「共に」活性化に取り組むこと

○ 「sugusocó 戸山・湯来」にこめた思い

1 気軽に楽しめる身近なエリア

予定のない週末など余白日に、ふらっと出かけられる“すぐそこ”にあるエリアであることをストレートに伝えたい。

2 自分なりの過ごし方が見つかる魅力あふれるエリア

地域資源が豊富な両地域で、それぞれの過ごし方でリフレッシュし、とっておきの大切な場所にしてもらいたい。

3 共に地域の魅力をつくるエリア

両地域のことを知ってもらい、地元住民と都市住民で、共に魅力を創り出していく、そんな交流をしたい。



久保アグリファーム



Green slow fes



田植えイベント



くもで交流広場

4 活性化の基本方針

○ 両地域の特長を生かし、エリアイメージにこめた思いを実現する、3+1の「い空間」

い
癒

空間 基本方針1

“温泉×スポーツ”
の魅力づくり

～スポーツ王国広島の湯治場
で癒やしを感じる場～



奥湯来田舎体験ハウス
「しまた」



Oishi 吉山

い
異

空間 基本方針2

“自然・文化×体験”
の魅力づくり

～春・夏・秋・冬
非日常を味わう場～

い
i

空間 基本方針4

i nformation

“魅力×情報発信”

三つの「い」の魅力を
効果的に情報発信する

い
胃

空間 基本方針3

“食×こだわり”
の魅力づくり

～食のおいしさを
実感できる場～



リースづくりイベント



テントサウナ

5 取組内容

癒 空間 基本方針1 “温泉×スポーツ”の魅力づくり

- 新** アマチュアスポーツの合宿誘致 **中**
体育館、運動広場などの運動施設、温泉街の宿泊施設等の合宿環境をPRするとともに、合宿を誘致する上での課題について検討し、よりよい環境整備に努める。
- 新** クアハウス湯の山の機能の充実 **長**
利用実態をもとに多くの人々が利用しやすい施設の在り方について検討する。
- 新** 空き家や公共施設の有効活用 **長**
空き家や学校などの公共施設を、宿泊施設などに活用することを検討する。



健康・運動相談会

異 空間 基本方針2 “自然・文化×体験”の魅力づくり

- 新** 多様なニーズに応じたキャンプ場整備 **長**
グランピングサイトから林間サイトまで幅広いユーザーに対応したキャンプ場整備やキャンプ可能場所の提供を行う。
- 新** 空き家や公共施設の有効活用 **長**
空き家や学校などの公共施設を、体験教室などに活用することを検討する。
- 拡** 地域の自然・文化を発信するイベント等の開催 **短**
自然・文化を体験・発信するイベントを開催することで、広く都市住民を呼び込み、地元住民の憩いの場とするとともに、中山間地域における自然との共存や課題について学び、両地域への関心を高める。



湯の山温泉湯治場まつり

胃 空間 基本方針3 “食×こだわり”の魅力づくり

- 新** 学校と連携した食と農を大切にする地域づくり **短**
地元住民が小・中学校等と連携して農業に取り組み、その過程を映像にして上映する会を開催し、地域内外の人が共に食や農の現実と理想を学び、食と農及び両地域への関心を高める。
- 新** 地元食材を発掘する料理人や食材調達人の呼び込み **長**
特色あるメニューを開発し、地域活性化に取り組む飲食店等へ物件を紹介したり、広報をサポートしたりするなど出店を後押しする。
- 新** 空き家や公共施設の有効活用 **長**
空き家や学校などの公共施設を、飲食店などに活用することを検討する。



ぼたん鍋

i 空間 基本方針4 “魅力×情報発信”

- 新** Oishi 吉山のランドオペレーション機能の活用 **短**
戸山の魅力発信拠点である Oishi 吉山を両地域案内の拠点とし、見所や周遊コースを紹介するパンフレットやちらしを配架する。
- 新** 地域ガイドの育成 **中**
地元住民ガイドを育成し、イベント等で都市住民に魅力を伝えるとともに、次世代へ地域の魅力を承継するため学校等との連携を図り、授業等を実施する。



Oishi 吉山

- 新** …新規で取組を実施するもの
 拡 …現在の取組を拡充するもの
 継 …現在の取組を継続するもの
短 …短期（～3年）で取り組む事業
 中 …中期（～5年）で取り組む事業
 長 …長期（5年以上）で取り組む事業

拡 地域資源を生かしたアウトドアアクティビティの充実 **短**

家族や仲間でするアウトドアアクティビティのプログラムと、アクティビティの後は、ゆっくりと温泉で疲れを癒やす楽しみ方を提案し、心身をリフレッシュさせる地域としての定着を図る。



E-バイクでの活動

拡 トップアスリートによる湯治場としての活用 **中**

カーブ新入団選手による湯の山明神参拝を継続しながら、トップアスリートにオフシーズンの体のケアや自主トレの施設や場所を提供して誘致する。あわせてスポーツ教室などのイベントにより地域やファンと交流する機会を設ける。

拡 自然・文化を体験する学習・研修プログラムの充実 **短**

これまで戸山・湯来で行われてきた体験活動をもとに、実施場所や指導できる講師を準備し、プログラムの充実を図って受入態勢整備に努めるとともに、都市部の企業や学校に働きかけて利用を促し、都市住民と地元住民との交流の充実を図る。

継 神楽などの伝統行事の承継 **短**

若手住民が伝統行事の担い手となり、年中行事として着実に実行し、地域外からの人の呼び込みを図る。伝統を承継するために保育園・幼稚園、小・中学校での普及活動を実施する。



小学校での神楽の授業

拡 地元特製弁当の企画・販売 **短**

地元飲食店・生産者と連携して地元食材を活かした特製弁当を開発し、地域の学校や団体等の行事で提供し、地元食材や生産者への関心と地域への愛着を育てるとともに、都市部の販売ルートを開拓し、都市住民に戸山・湯来の食文化をPRする。

拡 戸山・湯来のグルメスタンプラリーの開催 **短**

1泊3食の宿泊プランとして、翌日の午前中の過ごし方と昼食をセットで提案し、より長く地域に滞在してもらうことで、地域の魅力を感じられるようにする。

拡 完熟堆肥づくりを通じた循環型農業の推進 **中**

地域の酪農家や米、野菜生産者等が協力して堆肥づくりに取り組み、循環サイクルを確立するとともに、農業の根幹にある土づくりを大切にする食文化を醸成・発信する。

拡 お試し宿泊施設の整備・活用 **中**

宿泊者には、地域の魅力を実感してもらうとともに、魅力を深く知った宿泊者の口コミによる情報発信をねらう。

拡 戸山地域・湯来地域全域の効果的な情報発信に向けた仕組みづくり **中**

Web ページの作成、SNS の活用、動画の作成等、利用者が気軽に取得できる情報を発信する。



奥湯来田舎体験ハウス「ほんち屋」

6 取組姿勢

取組に当たっては、行政の支援を受けながら・・・

地域が有する **価** 値に誇りをもつ

地域の特長を生かし、地域の魅力を伝えるには、地元住民が地域に愛着をもっていることが必要不可欠である。

各取組に **楽** しんで取り組む

各取組は、地元住民が楽しみながら取り組める内容とする。地元住民が楽しんでいるからこそ、取組は続き、地域の魅力は伝わる。楽しむ姿も魅力の一つである。

ピンチをチャンスに **反** 転させる

例えば、空き家や公共施設を有効活用することで、新たな魅力を創り出す。取組が増えれば課題も増えるが、よりよい取組にする機会と捉え、知恵を出し合って解決する。

一番の **応** 援団になる

地元住民は、プレイヤーとして取組を進めるだけでなく、各取組への参加や利用を通じて積極的に応援したり、取組に参加する人を歓迎したりする。

か 価 **がく 楽** **はん 反** **のう 応** を引き起こし地域を活性化

7 将来的に目指す姿

■ 定住者を増やす

- ・ 戸山と湯来の価値に共感する人を呼び込む
- ・ 若い人（子育て世代を含む）を呼び込む
- 担い手となり得る人を育てる

住民が生き生きと暮らす姿

■ 公共交通ネットワークの構築

- ・ 湯来温泉と湯の山温泉をつなぐ
- ・ 湯来と戸山をつなぐ
- ・ 湯来と市中心部をつなぐ

■ 再生のまちづくり

- ・ 空き家を再生
- ・ 温泉を再生
- ・ 森林を再生
- ・ 農地を再生

(参考) 戸山地域・湯来地域活性化推進協議会構成員等

| | | 当時の所属等 | 氏名 |
|-----------|----------|------------------------------------|--------|
| | コーディネーター | (株) 地域事業再生パートナーズ | 今若 明 |
| 構成員 | 戸山 | 戸山地区町内会連合会 | 衣笠 正憲 |
| | | (株) EVENTOS | 川中 英章 |
| | | (株) EVENTOS | 浅津 啓介 |
| | | やませみ舎 | 小西 晃紘 |
| | | 戸山小・中学校 PTA/やませみ舎 | 瀬川 雄一 |
| | | やませみ舎 | 今田 新 |
| | | 農事組合法人よしやま | 野稻 正至 |
| | | 農事組合法人ほなみ | 二反田 正康 |
| | | 農事組合法人戸山の郷中王 | 小山 正則 |
| | 湯来 | 水内地区町内会連合会 | 品川 国彦 |
| | | 水内地区町内会連合会 | 小田 稔 |
| | | 砂谷地区町内会連合会 | 釜賣 昭男 |
| | | 杉並台連合町内会 | 賀張 則明 |
| | | 上水内地区町内会連合会/湯来観光地域づくり公社/湯来交流体験センター | 佐藤 亮太 |
| | | 湯来町観光協会/湯の山温泉商工同業組合 | 国沢 紀代子 |
| | | 五日市商工会湯来地区振興委員会 | 光井 利成 |
| | | (有) 藤利食品 | 伊藤 剛 |
| | | 水内の将来を創る会 | 森井 和也 |
| | | 砂谷 (株) | 久保 宏輔 |
| | | 陶芸家 | 吉野 綾 |
| | | 国民宿舎湯来ロッジ | 藤田 浩司 |
| | | クアハウス湯の山 | 和田 元 |
| | | クアハウス湯の山 | 永井 正光 |
| | | 湯ノ山旧湯治場利活用検討委員会 | 西尾 保幸 |
| | | 志井町内会 | 岩田 光史 |
| | | 湯来出張所 | 谷口 清行 |
| | | 湯来出張所 | 光井 雅一 |
| | | 湯来東小学校 PTA | 東 宏二 |
| | | 湯来西小学校 PTA | 児玉 知三 |
| | | 湯来西小学校 PTA | 西本 暁博 |
| | | 湯来南小学校 PTA | 阪本 裕二 |
| | | 湯来中学校 PTA | 坂下 龍二 |
| | | 砂谷中学校 PTA | 山本 高広 |
| 砂谷中学校 PTA | 角前 沙織 | | |

(敬称略)

※ 戸山地域・湯来地域活性化プランは、広島市のまちづくりに関係する部局（企画総務局地域活性推進課、安佐南区地域起こし推進課、佐伯区地域起こし推進課等）と連携して作成した。

(参考) 活性化に向けた協議

1 戸山地域・湯来地域活性化推進協議会

地元住民・民間事業者等の関係者から成る「戸山地域・湯来地域活性化推進協議会」(以下「協議会」という。)を開催し、都市住民を両地域に呼び込むための活性化プランについて検討した。協議会では、戸山地域・湯来地域に存在する地域資源、すでに地域や行政が進めている取組を洗い出し、両地域を一体として捉えたエリアイメージについて検討するとともに、取組をエリアイメージに基づく基本方針ごとに整理した上で、さらに相乗効果を生み出すような新たな取組について検討した。



第1回 令和2年10月 9日(金) 18:30~20:30 湯来交流体験センター

戸山地域・湯来地域活性化プランの策定に係る説明と意見交換

両地域に人を呼び込んで、活性化を図るため、両地域を一体的に打ち出すエリアイメージ及び取組について、意見交換を行った。

第2回 令和2年11月 4日(水) 18:30~20:15 サンピアゆき

エリアイメージを実現する取組の検討(地域の取組事例紹介から)

すでに地域で取り組まれている事例のうち、地域の特長を生かした事例や持続可能な事例を共有し、交流人口拡大に向けた具体的な取組内容やゴールイメージを検討した。

第3回 令和3年 3月 3日(水) 18:30~20:15 Oishi 吉山

エリアイメージを実現する取組の検討(専門家による講義から)

取組内容の検討を深めていくための新たな視点を得ることを目的に、スポーツと温泉について知見を有する大学教授及び食を通じた地域活性化に取り組む企業の経営者から講義を受けた。

第4回 令和3年 4月13日(火) 18:30~20:15 サンピアゆき

エリアイメージと取組の再検討

これまでの議論を踏まえ、エリアイメージを再検討した後、取組の優先順位付けを通して取組内容のブラッシュアップを行った。

第5回 令和3年 6月30日(水) 18:30~20:00 サンピアゆき

エリアイメージと取組の再検討と今後の進め方

第4回の議論を踏まえ、エリアイメージの検討を深めるとともに、今後は、作業部会に移行して引き続き取組内容を検討し、実現性の高いものから実行していくことを確認した。

事後アンケート

エリアイメージの決定

全構成員を対象にアンケートを実施し、エリアイメージを決定した。

2 戸山地域・湯来地域活性化推進協議会作業部会

協議会において決定したエリアイメージに基づいて、実施可能な取組を試行しながら、活性化プランに記載する具体的な取組について検討するため、「戸山地域・湯来地域活性化推進協議会作業部会」(以下「作業部会」とい



う。)を設置した。作業部会は、エリアイメージ実現のため、基本方針ごとに設置する分科会、全分科会構成員で構成する全体会、各分科会2～3名からなる世話人会によって組織し、具体的な取組内容を検討し、活性化プランの実現を図ることとした。



う。)を設置した。作業部会は、エリアイメージ実現のため、基本方針ごとに設置する分科会、全分科会構成員で構成する全体会、各分科会2～3名からなる世話人会によって組織し、具体的な取組内容を検討し、活性化プランの実現を図ることとした。

第1回 世話人会 令和3年 7月30日(金) 18:30~20:00 湯治 Bar sozoro

各世話人が今後取り組んでいきたいことや、所属する企業や団体で予定されているイベント等のうち、連携可能な取組を記した情報共有シートをもとに共有した。

第2回 世話人会 令和3年 8月25日(水) 18:30~20:30 オンライン会議

第1回の情報共有シートをもとに、取り組みたいことを実現させるためのアイデアや、予定されているイベントを充実させるために連携できることについて検討した。

第3回 世話人会 令和3年 9月21日(火) 18:30~20:15 オンライン会議

情報共有シートの中から、実現性の高い取組を取り上げ、取組企画シートにまとめて持ち寄り、取組の具体的な内容を協議し、実施までに必要なことを整理した。

第1回 全体会・分科会 令和3年11月 5日(金) 18:30~20:15 サンピアゆき

世話人会で検討してきた取組及び試験的に実施した取組について作業部会全体会に提案・報告し、これらの取組を今後より良い形で実施するため、各分科会に分かれて、誰が何に取り組んでいくかについて具体的に議論した。

第4回 世話人会 令和3年12月 7日(火) 18:30~20:00 NYU sagotani

これまでの協議会・作業部会での議論を踏まえ、活性化プランの記載内容について協議するとともに、地域に誇りをもち、楽しんで取り組める担い手が必要であることを確認した。

第2回 全体会・分科会 令和3年12月22日(水) 18:30~20:15 サンピアゆき

第1回の作業部会で協議した取組を実施するに当たって必要となる作業や課題について、解決方法を検討したり、担当者を決めたりして具体的に協議した。すでに実施した取組については、来年度に向けて、学校や地元住民との連携を図るなど充実させる方策を検討した。

第5回 世話人会 令和4年 2月14日(月) 19:00~21:00 オンライン会議

都市住民が両地域と深く関わることを通して両地域の活性化を図ることの重要性や、活性化プランを実現するための体制づくりについて協議した。

第3回 全体会 令和4年 3月22日(火) 18:30~20:15 サンピアゆき

活性化プランについて協議し、決定した。また、今後、取り組みを進めながら状況に応じてプランを修正していくことや、プランを実現していくための体制を具体的に検討していくことなどを確認した。

suguso^ó 戸山・湯来